

フランス柔道、憧れが原点

元国際柔道連盟理事 笠松で講演



フランスの柔道について講演するミッシェル・ブルース氏＝笠松町常盤町、笠松中央交流センター

フランスの柔道の競技人口が日本の3倍以上にまで増えた理由を解き明かす講演会「フランス柔道の秘密」が、笠松町常盤町の笠松中央交流センターで開かれた。

運営する社会医療法人蘇西厚生会が開き、柔道関係者ら約30人が参加した。ブルース氏と同病院柔道部員らによる練習会もあった。

(安井真由子)

元国際柔道連盟理事のミッシェル・ブルース氏は、フランスで柔道が普及した理由の一つに浮世絵の存在を挙げ「日本文化に対する憧れがあった」と解説。加えて1940年ごろには武器の持ち歩きが禁止され、体の小さい上流階級を中心に護身術として柔道が広まったと説明した。

国家資格制度を作るなど「柔道家が職業として成り立つようになったことも大きかった」と推察し、「フランスにおける柔道はもはや国技」と締めくくった。

講演会は松波総合病院を